

学び舎ユネスコ News no.8

2015年10月発行

【発行】学び舎江戸東京ユネスコクラブ

事務所：〒187-0032 小平市小川町 1-904-56

http://www.unesco.or.jp/manabiya/

E-mail: manabiya@unesco.or.jp



小平市市民活動支援公募事業

「第6回学び舎ユネスコ教養文化講座」を開催

9月13日(日)午後1時半より小平市中央公民館において「第6回学び舎ユネスコ教養文化講座」を開催しました。当日は、主催者側の予想を大きく上回る80余名にもおよぶ多数の方々にご参加頂きました。配布資料の不足など一部不手際がございましたこと、この場をお借りしてお詫び申し上げますとともに、皆さまには心より感謝申し上げます。

「小平の分水網(50km)は生きている!! 小平の歴史遺産にしよう」を講演のテーマに掲げたこともあり、改めて皆さまの玉川上水・小平分水への関心の高さを窺い知ることができました。



講師 小川 望氏

”小平の成り立ちに不可欠な玉川上水や小平分水網の役割を知り、保全活動の大切さを学ぼう”ということで、第一部は考古学者であり、小平市学芸員の小川望氏による「玉川上水・小平分水網とその恩恵」と題してご講演いただきました。

特に小川氏は、昭和49年に発掘された鈴木遺跡に深く関わってこられ、さらに現在は小金井橋北西岸の発掘調査も手掛けられ「これらの実際の発掘調査によって、小川分水網の姿をより明確にすることが出来る。」と話されました。

小平分水網は新田開発のための生活用水に始まり、水車の動力、水田の灌漑用水などさまざまに利用されたこと、一時期ではあるが玉川上水が江戸に物資を運ぶ通船にされた模様にも話がおよぶなど考古学者としての立場から小平地域における「水・分水網」について熱く語っていただきました。

この講演を受けて、続く第二部シンポジウムでは小川望氏のほか、これまでも玉川上水・小川分水に深く関わってこられた、玉川上水ネット代表の柴俊男氏、小平郷土研究会会長の立川鉄六氏、そしてわが学び舎ユネスコ会長・多摩美大名誉教授の渡部一二氏の四氏による、玉川上水・小川分水への熱い思いや、これまでの体験談、語り継がれてきた先人たちの水にまつわる苦労話などをそれぞれ語っていただきました。

そして、シンポジウムの最後に「生きている50kmにもおよぶ小平分水網をこれからどのように守っていったらいいのか。」については、地元市民と自治体行政とが一体となって知恵を出し合い、例えば緑の散策道として水辺の活用に関心をもち、心を開くことが大切ではないかと。そのためには、しっかりと活動のための裏付けの確保や、将来にわたっての「未来遺産=宝もの」となりうるためのさまざまな情報収集などにも、注力する必要があると締めくくり、閉会しました。



パネリストの皆様



「第7回 学び舎ユネスコ教養文化講座」のお知らせ

2015年12月6日(日) 13:30～ 小平市中央公民館 2階 講座室2

仮称「郷土こだいら再発見」 — 現在に生きる先人の知恵 —

講師：立川 鉄六氏 (小平郷土研究会会長)